

## 第3回 鳥取市市民自治推進委員会 議事概要

1 日 時 平成28年8月30日(火) 9:00～11:05

2 場 所 鳥取市役所本庁舎 4階第4会議室

### 3 出席者

(1) 委 員 福島委員長、上田委員、佐々木委員、高濱委員、有田委員、景下委員、平尾委員  
(順不同) 委員出席者7名

(2) 鳥取市 福島協働推進課長、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任

(3) 傍聴者 なし

### 4 議 事

#### 協議事項

(1) 参画と協働のまちづくりフォーラムを振り返って

(事務局)

7月31日に開催した参画と協働のまちづくりフォーラムの開催に当たっては大変お世話になり、感謝申し上げます。事前の実行委員会でも活発な意見をいただいたことで、当日はパネリストの話聞くだけに終わらないフォーラムになったと考えている。

フォーラムの検証として、まずは当日までのスケジュール及び当日の流れ、収支決算について説明を行うので、皆さんからご意見を伺いたい。特に、時期については、例年11月あたりに開催していたが、他のイベントと重複しないようにとのことで時期を早めて7月に開催した。時期が妥当であったかどうかについても意見をいただきたいと考えている。

<フォーラムの時期及び内容、収支決算について>

《事務局説明》

(委員長)

開催時期については、例年は秋が多かったように承知しているが、今年度は7月に開催した。どのような印象を受けたか。

(委員)

7月末は、鳥取地域だと地区の納涼祭や夏祭りや日にちが重複してしまう。少し早めるとよいのでは

ないかと感じた。

(委員)

今年度は鳥取地域での開催だったが、次回の開催地は変わるか。その地域によってまた開催に向けた時期は異なると思うので、地域性を考慮したらよいと思う。

もともと私達には「フォーラムやイベントは秋」というイメージがある。秋には毎週のように何かのイベントに出かけることになり、優先順位をつけて出かけるとなるとこういったフォーラムはどうしても後位の方にくるのではないかとのことで、今回は7月を選んだと思う。真夏の文化的なイベントというのはしっかりこないものもあるので、いくら忙しくても何となく秋の方が気持ち的にじっくりくるような印象を持った。

また、真夏の開催だったが、施設の空調がよく効いていて寒いと言われた方もあった。

(委員)

秋はどうしてもイベントが多い。新市域でも、同じ支所管内で同じ日に2か所でイベントをしているのを見かけたこともある。そうするとやはり優先順位を付けることになると思うし、役などで関わっていれば、別のイベントに興味があっても参加したくても参加できないということもあるかもしれない。

準備期間などを考慮せず、開催時期だけを考えると、6月頃でもよいのではないかと考える。梅雨で時期はよくないかもしれないが、例えば子どもがいる家庭では、年度初めは週末に参観日なども入ってくるし、4月や5月に運動会をする学校もある。そういうことが少し落ちつく6月頃でもよいのではないかと感じた。

(委員長)

フォーラム当日の時間配分について、実施報告の中で予定時間と実績が比較されているが、いかがか。また、フォーラムの内容についても意見を伺う。

(委員)

私が加入している団体などは、行事を開催しても、開会行事が長引いて時間が調整できなくなり閉会が延びたりすることもあるが、今回のフォーラムは予定通りに進んでいた。司会者の配慮を感じた。

(委員)

本当に予定どおりできたと思う。パネルディスカッション後の委員長の総括でとても良い話をされたので、ここがもう少し長くてもよかったと思うが、司会をしていた私は時間配分ばかり気になり、内容が入ってこなくて勿体なかった。それ以外の点は、本当に理想どおりコーディネーターの先生がすごく上手にされたのでよかった。また、この後にも意見が出るかとは思いますが、会場の参加者の意見が活発的に射た表現が多く、大変中身の良いディスカッションができて非常に良かったと思っている。時間配分を含めてうまく収まったのではないか。

(委員)

特に問題は感じなかった。パネルディスカッションの成り行きをステージ横から見ていたが、コーディネーターの先生が進め方を事前にかなり準備されていたのではないと思う。学生パネリストから問題点を提起する形で、そこを1つの起点として会場からの意見を求めていた。会場からも3人ほど発言されたと思うが、ステージ上のパネリストの発言ばかりだと、決まりきったディスカッションになっていたと思う。また、自治連合会代表として登壇されたパネリストが現状を十分知っておりながら、いろいろな人の意見を1つに偏らず、柔軟にうまく話されたことが非常に印象に残った。会場からは、率直というか剛直的な意見を言われた人もあったが、普段思っておられる意見を率直に口にされているのは良かったと私は思う。

私は、フォーラムというのは行政からの一方的な啓発あるいは広報といった方向性を持った催しだと思っていたが、いろいろなことを知れたという点で、委員として参加してよかったと思う。市民自治推進委員会の目的である「調査」に値するのではないと思う。

(委員)

すばらしい出来であったと思う。

(委員)

時間配分については、途中でずれたところもあったが最後はきちんと予定通り終了した。短い期間の中で、事前準備がきちんとされていたのだと思う。ただ、もう少し早くチラシが配布できていれば、もう少し多くの人に来ていただけたのではないかと大変残念に思う。来場者はつながりがあるように見える方もあったので、そういう方はもちろんのこと、それ以外の方でも、チラシを見て来てくださる方があればもっと良かったのではないと思う。

パネリストの人選やフォーラムの内容は本当に良かったと思う。

(委員長)

開催時期について、秋の開催と今回の開催時期を比較してどちらが良い悪いということではないが、秋の開催は、他にもいろいろな行事が開催されること、そしてそれらの行事が参加しやすい日曜日に設定されていることなどから、事務局は会場を押さえるのに大変苦勞したことと思う。そういったことから見れば、準備期間が短く大変だったとは思いますが、会場の確保という意味では7月頃でもよいのではないかと印象を受けている。

時間配分については、トータルで見るとほぼ予定通りに終了しているので、大体良かったのではないと思う。また、抽選会を実施したことは、来場者が最後までいてくださった大きな要因にもなっており、組み込んだことは良かったと思う。

今回のパネルディスカッションは大変難しいテーマだったと思うが、コーディネーターの先生のご配慮で学生のパネリストから客観的な立場での意見を出してもらうことができた。もっと時間があれば、来場者からもっといろいろな意見が出たのではないかと。来場者からは、集合住宅に入居して自治会に参画しにくいなどの率直な意見もあった。あるいは、町内会の役員の在り方についての疑問も出していただいた。そのあたりについては、町内会で役員の選出に関する規約を作るなどの必要があるのではないと思う。

今回のフォーラムで、町内会に参画しにくいという意見を来場者から聞かせていただいたことは、フォーラムを「まちづくりについての調査の一環」として扱ってきたことを考えると大変良かったと思う。

残念だったのが、会場に200人くらいは集まっていた良かった。私も個人的な立場でパンフレットを配布したり、町内にポスターを貼ったり、町内会役員に呼びかけるなどしたのだが、期待していたよりも来場者が少なかった。もっと人集めをする工夫が必要だったかと思う。チラシも早く配布し、もう少し周知期間があれば良かったと思うし、我々委員の立場としても、ポスターやパンフレットをもっと大々的に配布することも必要ではないかと思う。

それでは続いて、パネルディスカッションの検証について、事務局から説明をお願いします。

<パネルディスカッションの検証について>

<参加者アンケートの結果について>

#### 《事務局説明》

(委員長)

ただ今事務局から、フォーラム全体について、そしてパネルディスカッション、アンケートについてそれぞれ項目ごとに整理された資料に基づき、説明があったが、いかがか。

(委員)

パネルディスカッションの初めに事務局からの説明があったが、これがすごくインパクトがあった。今置かれている状況をパワーポイントで系統立てて説明されたことにより、皆の気持ちが「これからこれについて討議されるのだ」というように統一されたと思う。また、全体的にまとまりがあった。これはおそらく、事務局のチームワークがよかったことと、有能な方が育っているからだと思う。私は数年前にも市民自治推進委員を務めたが、本当にこんなに出来の良いフォーラムはないと思う。だからこそ、参加者が少ないのが残念である。参加者が多ければ、ここにあるアンケートの回答の倍は「すごい」と感じてもらえたはずだと思う。その代表的なものが、20代女性のアンケートにある「大変興味深かった。今日のフォーラムは本当におもしろかった。」という大変率直な意見だと思う。

以前は地域や市の職員に動員もかけていたと思う。動員をかけてこういうものに触れてもらい、意識を高めてもらうというのも一つの手段なので、もう少し周知できていれば、これだけのものを知ってもらえていたのと思う。

本日の委員会のまとめ資料も、能力の高い人が作成した資料だということを感じている。

(委員)

アンケートを読んでも、良い意見と良くない意見がはっきり分かれており、よく分かる。町内会という難しい問題を、うまくまとめられたと思っている。

(委員)

アンケートの自由意見を読み、意外と厳しい意見を書かれている方が多いという印象を受けている。

それだけ皆さんが、町内会をもっと良くしたいと思っている証拠ではないかと思う。率直な意見が聴けてよかったと思うので、委員会で参考にできればと思う。

(委員)

町内会の在り様は様々で、所によって非常に違うのだということを改めて認識した。それを踏まえ、アンケートをしたことによって非常に幅広い意見が出てきたことは、行政が取り入れる材料にはなりにくいかもしれないが、現状把握という意味では良かったのではないかと思う。

(委員)

当日は地区の行事と重複し、参加できなかったが、本日の資料を見て、参加者から多くの意見があり驚いた。私も地区の役員をしているが、住民にはいろいろな意見がある。皆が参画することで会が成り立っているが、重箱の隅をつつくように文句ばかり言う人もいる。

参加者が100名とのことで、さざんか会館が会場であることを考えると少し少なかったのではないかと思うが、町内会に思いのある方が参加されたように感じる。町内会に加入しなければならないという意見の人もいれば、反対に町内会に加入しなくても日々暮らしていけるという考えの人もいる。特に若い人はそうである。思いは人それぞれだが、パネルディスカッションのまとめを見ると、客席から「災害発生時には、構造がしっかりしたマンション等に避難する住民もいると思う。」との発言もあったようだ。協働でお互いに助け合って暮らしていかなければいけないのだから、在り方は別として、町内会という組織は必要ではないかと感じた。

(事務局)

事務局に対しても身に余る評価をいただいた。

先ほどから、もう少し参加者が多ければよかったとのこと意見をいただいている。これが開催時期とリンクしてくると思う。パネリストも直前まで決定せず、そのことで広報に遅れが生じた。このことに関しては事務局も残念に思っている。決して関心がないわけではなく、もっと早い時期に広報ができていればもっと多くの方にご来場いただけたのではないかと感じている。

もう1点、皆さんもお感じになられたかと思うが、パネルディスカッションについては、市長はオブザーバーという立場でなるべく発言を控えるという組み立てでいたため、結果的に、市長に向くべき話が、鳥取市自治連合会代表のパネリストに向いてしまった。ある程度想定はしていたが、自治連代表パネリストには、申し訳ないことをしたと思っている。また、本来であれば市長が応じるべき意見や質問もあったのではないかと思う部分もある。

(委員)

私は市長ではなく自治連代表パネリストが回答して良かったと思っている。市長がもし答えていたら責任を負わなくてはならなくなるし、市長では答えられないテーマが多かったと思う。

(委員)

私も同感である。市長でなくて良かったと思う。

(委員)

会場から、集合住宅の人が町内会に加入するとマンションの管理組合の費用と町内会費で負担が2万円にも3万円にもなるとの発言が飛び出し、自治連代表パネリストが「検討の余地がある」といった旨の回答をした。町内会の負担についてどう考えるかは町内会の中の話なので、それを市長ではなく自治連代表パネリストが回答したことが良かったと思う。自治連代表パネリストは、柔軟に回答されていたと思う。

(委員)

今回は、大変難しいテーマに取り組んだと思う。パネルディスカッションでやらせの的なことをすることは極力避けたいとのことで、当初は町内会不要のパネリストにも参画してもらい盛り上げを図りたいという意図もあったが、そのような人にはなかなか登壇していただけないのではないかとこのことで、学識経験者の知恵を借り、その立場に代わる人として鳥取大学の学生にパネリストをお願いした。

そういう意味では、準備期間は非常に短かったが、私は非常に良いフォーラムだったと思う。

また、先ほど事務局から、当日の市長の発言が少なかったとの振り返りがあったが、私はそれで良かったと思っている。まちづくりについて、町内会活動の必要性を市長が肯定的に話すのは良くないと思う。市長は、町内会の必要性については、助け合いの精神でまちを住みやすくしていくということも必要だと言う趣旨のことさえ少し発言すれば、それで十分だと思う。会場の皆さんからいただいている意見に対して「それはおかしい」などの発言をすることなく、控えめな立場のオブザーバーとして登壇してもらえたことは良かったと思う。先ほど他の委員からも発言があったが、そのあたりについては自治連代表パネリストがきちんと発言されていたので、良かったのではないかと。事務局は市長の発言が少なかったことが反省点だと発言したが、市長があまり発言すると、来場者の中から反発が出ていたのではないかとと思う。

また、アンケートの中には、「議論が深まらなかったのではないかと」といった趣旨の意見や、「パネルディスカッションは必要なかったのではないかと」などの感想も見受けられるが、根本は、自分たちが住んでいるまちを犯罪のないように、あるいは災害発生時に助け合っていける住みやすいまちにしたいという共通の思いがあると思う。そういった意味では、今回来場者から意見をいただいた内容を、今後の町内会の活性化や改善につなげてもらえればよいと感じている。大切なことは、町内の状況を回覧板等で町内会にその都度お知らせしていくことで、町内会活動の在り様を一つ一つ手に取ってもらえるようにすることではないかと思う。

(事務局)

フォーラム以降、来場されていた数名の市民が直接事務局である協働推進課にお越しになったり、「市長への手紙」という形でご意見をいただくなどの反応があった。いただいたご意見は、「実際に町内会で活動することの大変さを市長に分かってもらえる良い機会だった。改革を進めてほしい。」とのものだった。

町内会は、委員の皆さんもご存知のとおり任意団体であり、行政が直接関わっていない。そのような中で、このたび鳥取市自治連合会では内部に「加入促進部門」を設けられ、今後加入促進に向かって取

り組まれることになっている。当市民自治推進委員会委員でもある自治連合会副会長に自治連代表パネリストとして登壇していただいたので、今回のパネルディスカッションでいただいた来場者からの意見やアンケートを持ち帰っていただき、本市協働推進課も一緒になって加入促進の取り組みを進めていただきたいと考えているところである。

(委員長)

それでは、続いて議事「(2) 先進地視察」について、事務局から説明をお願いします。

協議事項

(2) 先進地視察について

《事務局説明》

(委員長)

ただ今事務局から、調査研究のための視察研修訪問先の案について説明があった。まずは、説明を受けての確認等があれば、お受けしたい。

資料によると、松江市では公民館運営費の一部を住民が負担しているとのことだが、雲南市の場合、住民の経済的な負担はあるのか。

(事務局)

そのあたりの確認はできていない。

資料に、調査項目案として「活性化策」、「制度的な位置付け」、「拠点施設との関係性」、「社会教育・生涯学習の実施状況」の4点を挙げている。もう1点気になっているのが、自治会とまちづくり協議会との関係である。雲南市は自治会役員の代表組織とまちづくり協議会が全く別で組織されているようだ。その関係性も視察できればと考えている。

(委員長)

時期はいつを考えているか。

(事務局)

年度当初の活動計画では、10月に参画と協働のまちづくりフォーラムの検証を、11月に視察研修を計画していたが、フォーラムの検証は早い方がよいと考え本日行ったので、視察研修は10月か11月にできればよいと考えている。

(委員)

指定管理についてはどのあたりまで議論が進んでいるのか。指定管理に出すべきかどうかという議論はよくあるが、経費削減以外の部分で、鳥取市において地区公民館を指定管理に出す必要性はどのあたりにあるのか。

(事務局)

まだ部内のみでの検討ではあるが、もともと指定管理については平成19年の「公民館のあり方中間まとめ」でも、今後検討していくべき課題として挙げている。

財政的な意味合いではなく、地域やまちづくり協議会が自立していくためには、まずは人員と財源が必要と考えている。その財源を、地区公民館である程度担保できないかと考えている。ただ、それが本当に運営できるのかどうかということを含めて、雲南市の状況を視察してはどうかとの思いがある。

(委員)

指定管理を採用することが自治の自立につながるかと言えば、それはなんとも言えないところである。公の施設なので難しい部分もあり、確かに今よりは少し自由になるかもしれないが、民間委託と言っても結局は行政が財政的に関与してくるので、かえって足かせになる面も出てくるのではないと思う。

指定管理に出さず、あえて直営で進む道もないのかということのも気になる場所である。

(事務局)

直営にも2つあると思う。社会教育法を残し、地区公民館のまま社会教育を中心に行っていく場合と、市長部局でまちづくりを中心に行っていくものである。両者とも行き着くところはまちづくりだと思うが、そのあたりはどのようにお考えか伺いたい。

(委員)

混在している部分があると思うので、やりづらいのは理解している。どちらかで仕切るというのが現実的ではないので、今のままで進めていくことにも問題がないとは言えないと思うが、指定管理にしたならそれが解消するかという部分について疑問に思っている。

(事務局)

確かにそれについては議論が必要な部分だと考えている。事務局もあまり多くの自治体の例を研究できていないが、三重県桑名市が平成27年3月に「公民館の活用方法と今後のあり方」を作成している。桑名市は、生涯学習を中心に公民館でいくことを決定しており、公民館に正職員を配置してまちづくりに取り組んでいこうという考え方のようである。おそらく本市の考えとは対照的である。桑名市は、行政がテコ入れして地域を作っていこうという考え、本市は地域に頑張ってもらいながら活動の支援をしていこうという考えである。

これは、生涯学習という教育委員会サイドの考えに基づくものか、総務省の協働のまちづくりの視点に基づくものかの違いである。実際に桑名市の資料を読んで、事務局でも昨日、担当者2人でどちらがよいのかと頭を悩ませたりもした。本市でも、すでに教育委員会との議論を始めてはいるが、そういった意味でも実際の現場を見たいと考えている。特に先ほどご意見をいただいたとおり、生涯学習の視点から取り組みを強く進めている自治体についても実情を見たいという思いがある。松江市は生涯学習の視点で取り組まれており、比較対象とするためにも、雲南市と松江市の両市を続けて視察したいと考え



たところである。

(委員長)

資料によると、雲南市は社会教育法の適用除外とされているが、雲南市では生涯学習はしていないということか。地区公民館には、社会教育法上の本来の目的である「地域の成人の教養向上」が努力義務として設けられていると思うが。

(事務局)

雲南市については「公民館条例」を廃止し、新たに「交流センター条例」を制定している。地区公民館は社会教育法に基づいて事業を行っているが、雲南市では、本市でいうところの自治基本条例のようなものに基づいて交流センターを設置している。交流センターの業務内容は、生涯学習と地域福祉とまちづくりであるとされているので、生涯学習は必ず行うものとなっている。

(委員長)

松江市の場合は、生涯学習についても指定管理受託者に委任しているのか。

(事務局)

松江市は、社会教育法に則った公民館なので、公民館の形態のままで指定管理としている。そのため、公民館は基本的に生涯学習、社会教育を行うことを本務としている。ただ、生涯学習にはまちづくりを含めるという考え方なので、この中でまちづくりを進められている。

(委員長)

鳥取市の場合は、地区公民館を地域コミュニティ活動の拠点としているので、今後そういった機能を重点にしていく必要があるとの認識だと思う。ただ、取り組みを進めるにしても、段階的に進めていくのか一挙にいくのかという課題もある。

個人的に考えるのは、公民館は元来様々な講座を実施したりスポーツを行うために施設を借りたりしてきたが、現在、法律が制定された当時のような必要性は薄れてきているのではないかと思う。むしろ高齢化が非常に進行し、特に中産間地では核家族化も進んでいる昨今では、高齢者の買い物の問題や独居高齢者の問題などに対する地域ケアの必要性が増していくのではないかと感じている。公民館を地域ケアの拠点としていく方が、重要性が増してくるのではないかと思う。成人向け講座は、NHK文化センターや駅南のふれあい会館でも実施している。スポーツにしても、産業体育館や市の体育館などを積極的に開放している。公民館が必要な場としての社会教育のあり方も変化していきつつあるのではないかと思う。むしろこれからは地区公民館は地域の人がよりよい生活を営むための場として必要なのではないかという気持ちを強く持っている。

事務局としては、視察するとすれば松江市と雲南市のどちらがよいと考えているか。

(事務局)

地理的に近いので、できれば両市とも訪問したいと考えている。行程は問題ないが、雲南市は全国的

に先進的な事例として知られているため視察が集中しており、日程が取れるかどうかの方が気がかりである。

(委員長)

資料の調査項目にもあるように、地域コミュニティと公民館との関係性について雲南市がどのような取り組みをされたのかというあたりは聞いてみたい。

公民館をつくる時には、交付税など国から支援を受けているのか、市の単独予算か。交付税措置など財政的な支援を受けているのなら、今の公民館活動を変化させることにより問題は発生しないか。

(事務局)

今ある地区公民館については、本市の公共施設のあり方を定めた長期計画の中で、合併特例債を活用して維持更新している。あとは過疎債と一般財源である。

(委員長)

それでは事務局は、視察に当たり、委員の皆さんからは雲南市と松江市に対して質問したい項目をあらかじめ集め、先方に提出をお願いしたい。その方が視察もスムーズに進行すると思う。

(事務局)

現在協働推進課が作成中の協働のまちづくりガイドライン及び地区公民館の活用の基本方針について、今年度中に取りまとめたいと考えているため、視察を10月頃に設定することで、視察内容をリンクさせたいと考えている面もある。

それから、少し前に委員から発言をいただいた部分について補足したいと思う。

現時点で、指定管理であるべきだという考えを持っているものではない。ただ、3つの側面があると思う。1つはハード面で、「地区公民館はどうあるべきか」ということである。旧来からの社会教育を行うための施設という限定した機能ではなく、指定管理に置くことで、先ほど委員長が言われたような福祉も含め、まちづくりなどのニーズにも耐えていける多機能施設として今後も維持していくべきだという本市の公共施設に関する大きな基本方針がある。

もう1つは、委員長が、現在は多くのカルチャーセンター等もあるが、今までのような機能が必要なのかと発言された。ただ、それでは生涯学習の機能がなくなってもよいかということそれはまた乱暴な話で、その機能を排除する理由もないと思う。その機能については維持するが、そのためだけの施設であり続けることが今の時代のニーズに合っているのかということ、今回の地区公民館の活用の基本方針の作成の中で考えていかなければいけないと思っている。そしてその運営に当たっては、地域の組織としてまちづくり協議会があるのだから、指定管理という運営方法も可能性として視野に入れ、検討すべきではないかということである。

3つ目に、全ての地区公民館を指定管理にするかということについても、課内で様々に検討している。松江市は包括的に全市内の公民館を指定管理としているが、そうではなく、指定管理に対して意欲がある、あるいは指定管理に耐えうる地域から順次進めていく方法もある。その可能性についても探っていくべきだと考えている。

(委員長)

それでは10月頃に雲南市と松江市に視察に行くということで、準備を進めたい。

以上で本日の議事は終了した。次に「4 その他」について何かあれば報告をお願いしたい。

(事務局)

次回日程については、後日調整させていただく。

本日の委員会において、参画と協働のまちづくりフォーラムのパネルディスカッションとアンケートの検証について、一部しかご紹介できなかった。後ほどご覧いただき、ご意見をお送りいただきたいと思いますと考えている。

また、視察研修についても、事前に質問事項を取りまとめることとする。

## 7 閉 会